



海上保安大学校／海上保安学校 入学案内

JAPAN
COAST
GUARD
ACADEMY
& 
SCHOOL



海を舞台に、夢は広がる。

何にもかえがたい誇りが、ここにある。



治安を維持する。

密漁や密輸・密航などさまざまな海上犯罪や、テロの未然防止のために巡視船艇や航空機を用いて徹底した監視、取締りを行っています。



領海を守る。

領有権主張活動を行う諸外国などから国境海域を守り、わが国の権利をしっかりと諸外国に示すべく領海などにおける海洋権益の保全に当たっています。



生命を救う。

海難に際しての体制を常に整え、有事には巡視船艇や航空機を運用して迅速に救助を実施。また、自己救命策の確保について啓発活動を行うなど海難の未然防止策も講じています。



青い海を守る。

美しい海洋環境を守っていくための海洋汚染の調査や監視取締り、環境保全の指導・啓発活動を行っています。



災害に備える。

船舶の衝突、沈没などによる油の流出事故や地震・津波などの自然災害に備え、機材の整備、訓練の実施など有事の際に迅速に対応するための体制を整えています。



海を知る。

航海の安全確保や海難防止のために、測量船などでさまざまな海洋データを観測し科学的調査を行います。また、これらの情報を広く提供しています。



航海を支える。

船舶の航行に必要な安全情報の提供や管制業務、灯台などの航路標識の整備ほか、海上交通の安全を確保するための支援を行っています。



海を繋ぐ。

多様化、国際化する海上保安を取り巻く諸情勢を踏まえ、諸外国との幅広い連携・協力関係を構築。危急の事態には派遣活動なども行います。





正直、体力勝負の日々だけど責任も、楽しみもある職場

平成15年 海上保安学校航空課程 卒業
第十一管区海上保安本部那覇航空基地 飛行士
堀田 美保子

ヘリコプター操縦士として、海難時の吊上げ救助や捜索などの人命救助、外国漁船の監視・取締りなどの幅広い業務を行っています。夜間や荒天時などなかなか厳しい飛行も多く、体力勝負の日々ですが、無事に任務を遂行できるよう乗組員とともにがんばっています。ちなみに航空基地では、外国の海上保安機関と連携訓練を行うこともあり、国際感覚を身につけ見聞を広める絶好の機会(1)とばかりに、それぞれの国の人々と積極的に交流を深めています。

大好きな海を自分が守る、初めはその想いだけでいい

昭和49年 海上保安大学校本科 卒業
海上保安庁 次長
城野 功

私が海上保安庁に入ったきっかけは、もともと海が好きで、海を守りたかったから。はじめは巡視船にて、人命救助や海上治安の維持に努め、平成22年からは現職に就いています。この仕事は知力・体力・気力のすべてが必要。その基本を大学校で学びます。卒業後はまず最前線の指揮官として、そして本庁に移れば、法律や条約など施策を企画する行政官として、多岐でやりがいのある仕事があります。国民の負託に応える気概のある、みなさまをお待ちしています。



変化のある刺激的な毎日が、今をつくる最高の学びとなる

昭和55年 海上保安大学校本科 卒業
鹿児島海上保安部巡視船あかいし 船長
宮尾 努

私は船艇勤務を中心に潜水士や巡視船の航海長、警備隊長など幅広く、警備・救難業務に従事してきました。現在は大型巡視船の船長として船の安全な運航や業務管理を行うほか、船隊が編成された際には現場指揮を行うなど、重大な判断を任せられる責任あるポストに就いていますが、それもこれまでの多種多様な経験があってこそ。海上保安庁は、毎日の変化が楽しく刺激的な職場です。今でも毎日が勉強になっています。

尊敬する祖父が背中を押したいつしか日々誇りを持てた

平成17年 海上保安大学校本科 卒業
海上保安庁総務部取務課 法規係
上堂園 優

尊敬する祖父が海上保安庁に勤めていて、昔から憧れがありました。ところが初任地・長崎の五島列島では初日から大シケ。嫌というほど海の怖さを思い知りました。ただ困難を乗り越えたときには大きなやりがいを感じ、祖父と同じと各々に立てた自分を誇りに思いました。今は、法令案の審査や各省庁との連絡を行うといった法務一般についての仕事をしています。国民の安全・安心に直結する責任重大な職務で気は抜けません、その分日々充実しています。



海上保安官、 として生きていく選択。

海上保安大学校、海上保安学校を卒業して、
今、現役の海上保安官として活躍する先輩たちは
今、何を想っているのでしょうか？



「美しい海」という舞台を、汚すも保つのも君の所作ひとつ

昭和51年 海上保安学校主計課程 卒業
昭和56年 海上保安大学校特修科 修了
第十一管区海上保安本部 次長
東谷 学

海に選ばれ、同時に海を選んで海上保安学校の門をくぐり、保安業務の最前線任務に従事してきました。その後特修科の道へ進み、現在は、沖縄の美ら海を守るための総括的業務に携わっています。我が国は、周囲を海に囲まれた海洋国家で、多くの恩恵を海から受けています。「日本の海を守りたい!」「海を舞台に世界で活躍したい!」そんな熱い思いを持った、みなさんをお待ちしています。

毎日おいしい料理を届ける、それが私の海上保安の仕事

平成18年 海上保安学校船艇航システム課程(主計コース) 卒業
佐世保海上保安部巡視船ちくご主計士補
中野 雄太

巡視船での仕事は、事故発生時における海難救助や海上における法令違反船舶の取締りなどいろいろありますが、本当にやりがいのある仕事ばかり。現在私は警備実施強化巡視船の主計士補として、乗組員に毎日おいしい料理を提供することを仕事としています。大事な任務で航海に出れば数週間帰れないこともありますが、家に帰れば一児の父であり、最近では娘のかわいい笑顔をみるのが楽しみです。仕事に対しても今までとは違ったやりがいを感じています。



海に「安全」という光を灯すそれが、私たちの使命です

平成13年 海上保安学校情報システム課程 卒業
平成22年 海上保安大学校特修科 修了
海上保安庁交通部企画課 庶務係
大泉 大輔

初任地は宮城県石巻の離島。現在は無人化されていますが、灯台守として3年間のかけがえない日々を過ごしました。私の出身である情報システム課程は、巡視船勤務や保安部での陸上勤務を相互に経験できるコースです。目的は同じ「海を守る」ことでも、海と陸両方の立場を経験することは、仕事の幅と自分の価値観を広げてくれます。今私が勤務する本庁交通部は、日々「海難0」のために施策の立案などに取り組んでいます。私たちといっしょに海の安全を守りましょう!

興味本意が夢に変わった瞬間その高揚感は一生涯忘れない

平成21年 海上保安学校海洋科学課程 卒業
海上保安庁海洋情報部測量船船洋観測士補
竹中 沢能

現在、本庁測量船船洋の観測科として業務に就いている私ですが、始めはほとんど興味本意で入学したので、この仕事についての知識はほとんどありませんでした。しかし学校でさまざまな知識や技術、また業務に触れていくなかで徐々に興味が湧き、将来への期待感が高まっていったことを今も思い出します。受験生のみならず、今立っている道の先には多様な分岐点があります。それらを一瞥し、自分が本当に興味を持っている道を目指して、進んでみてください。

海上保安大学校

(広島県呉市)



将来の幹部職員として必要となる高い教養と見識、また強靱な気力・体力、優れた人格を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成。多岐にわたる海上保安業務を全うできる能力・責任感を養います。卒業後は巡視船の初級幹部職員として配属され、能力および適性にに応じてさまざまなキャリアを積み、本庁、管区海上保安本部、海上保安部署などの幹部職員になります。

カリキュラム

2学年の途中から、航海・機関・情報通信という3つの分野のうち一つを選び、卒業後の進路を決定していきます。本科を卒業した学生は専攻科に進み、まずは遠洋航海実習を行い、国際感覚を養います。その後6ヶ月間の研修科国際業務課程において、語学を中心とした国際対応能力や実践的な海上保安業務に関する知識を修得し、巡視船の初級幹部職員などとして配属されます。

入学	本科(4年間)			専攻科(6か月) + [研修科]国際業務課程(6か月)	卒業後の 進路
1学年	2学年	3学年	4学年		
基礎教育科目 幅広い教養を身につける					
共通科目 哲学、文学、歴史学、行動科学、憲法、法学、経済学、統計学、数学、物理学、化学、物理学実験、化学実験、英語、英会話、保健体育 等	選択科目 ロシア語、中国語、韓国語のいずれか 柔道、剣道のいずれか	第一群 三級海技士(航海) 筆記試験免除	第二群 内燃機関三級海技士(機関) 筆記試験免除	第三群 航空無線通信士 第三級海上無線通信士 第二級陸上無線技術士	第一級海上特殊無線技士 第二級海上特殊無線技士 第一級小型船舶操縦士
専門基礎科目 専門教育を受けるため、まず必要な基礎能力を身につける					
共通科目 国際政治、政策科学、情報科学、気象学、海洋学、実務英語 等	特別科目 第I群(航海)・第II群(機関)・第III群(情報通信)のいずれか	第I群 航海学、船用計測工学、船体運動工学、海事法、船舶工学 等	第II群 材料力学、機械力学、機械設計、設計図演習 等	第III群 情報理論、回路理論、システム理論、電磁波工学、通信工学実験 等	取得資格 学士(海上保安)のほか上記のような資格が所得できます
専門教育科目 複雑化・国際化している海上保安業務に対応するために必要な、高度な専門能力を身につける					
共通科目 行政法、国際法、民法、刑法、刑事訴訟法、海上犯罪捜査論、捜索救助論 等	分群別科目 第一選択分群 海上犯罪論、海上取締法、国際海洋法、警察管理政策、国際紛争論 等 第二選択分群 海上交通工学、海上安全工学、海難救助工学、海上防災工学、システム工学 等				
訓練科目 逮捕術から救急安全法まで特殊技能を身につける					
逮捕術、けん銃、武器、信号、潜水、船艇、水泳、総合指揮(基本動作等、統率管理)、救急安全法 等					
実習科目 小型船舶の操船技術や通信技術を学ぶ					
小型船舶通信実技、国際通信実習 等					
乗船実習 習得した船舶運航の知識、技能を実際の船上で実践し、業務遂行能力を身につけます。					
国内航海実習				遠洋航海実習	

*卒業後、「潜水士」「特殊教習員」「国際取締官」「航空機のパイロット」といったスペシャリストとして活躍する道もあります。

幹部への道

巡視船の主任職員として配属された後、海上勤務と陸上勤務に切り替わりながらさまざまなキャリアを積み幹部職員となります。

年間行事

- 4月: 入学式
- 5月: 遠洋航海出港式
- 6月: 海神祭(学生祭)
- 7月: 遠泳訓練
- 8月: オープンキャンパス
遠洋航海帰港式
- 9月: 帆走巡航
- 11月: 特別研究(卒業論文)発表会
- 1月: 耐寒訓練
- 3月: 卒業式



1日の流れ

06:30	起床(起床整列・体操・清掃)
07:10	朝食
08:20	課業整列
08:45	授業
12:00	昼食
13:00	授業
授業終了後サークル活動	
17:15	夕食・入浴
19:00	自習時間
22:15	熄灯門限
22:30	巡検・消灯

*原則として17:15以降毎日外出は可能です。休日の前日は外泊もできます。
*熄灯門限22:15(翌日が休日の場合は23:00)
*おおむね土曜日、日曜日、国民の祝日は休日です。そのほかに、夏期・年末年始などに長期の休暇もあります。

サークル活動

*体育系各部のいずれかに属し、心身の鍛錬をはかります。

スポーツ系サークル
サッカー部、野球部、バスケットボール部、水泳部、剣道部、柔道部、逮捕部、カッター部、ヨット部、ラグビー部、テニス部

文芸系サークル
邦楽部、行政法ゼミ、学生音楽隊、応援団、教職員同好会、茶道同好会

国際交流

海外の学生を招いたり、休暇を利用して学生がアメリカ、ヨーロッパ及びアジア方面を訪れるなど、海外との交流を活発に行っています。

待遇

入学と同時に国家公務員(海上保安庁職員)として採用されます。そのため、給与(月額約14万円)やボーナス(年2回)が支給されるほか、国土交通省共済組合員としての保険給付などが受けられます。また、入学金や授業料が不要なほか、制服も貸与されます。

福利厚生

寮(全寮制)のほか、医務室などの施設が完備されています。医務室には、医師・看護師が配置され、十分な保健指導を行っています。そのほか校内には売店、理髪店などがあります。

在校生からのメッセージ



本科4学年II群 小笠原 啓
私が海上保安大学校を受験したのはは犯罪捜査に興味があり、また海上保安官が頭と体を両方使う職業だということに魅力を感じたからです。今は、「早く現場の戦力の一員になるんだ」との思いを胸に、どんなことでも挑戦しています。多くの方に興味を持っていただければ幸いです。みなさんの入学を楽しみにしています。



本科3学年I群 天野 優香
きっかけは受験生向けの巡視船の体験乗船。専門的な勉強や、何よりいろんな挑戦ができると思い入学しました。寮生活や男子と同じ訓練には不安を感じましたが、性別を超えて互いに助け合い、乗り越えることができました。また実際に女性の先輩の活躍する姿も見ることで、今は期待に胸がふくらんでいます。



本科2学年I群 太田 和希
東京湾を行き来する船を見て育ったので、将来は船に関する職業に就きたいと考えていました。当初、規則正しい寮生活に戸惑うこともありましたが、今では友人たちと充実した日々を過ごしています。学校では法律などの文系から理系科目まで幅広い授業がありますが、「海上保安官になる」という強い気持ちがあれば難しいものではありません。



本科1学年 仲田 信之介
国や社会の役に立つ仕事、とくに人の命を助ける仕事に就きたいと思い、入学しました。海上保安大学校での生活は、ある意味「挑戦」だと思っています。たとえば全寮制という今までの環境との違いに驚き、挑戦の中で派手なこともありますが、現在はとても充実した生活を送っています。あなたもきっと、仲間と助け合えば乗り越えることができます。

Q & A

受験生や保護者の方々から寄せられる「よくある質問」に対して、在学中の学生がお答えします。

- Q 入学前に不安だったことはありましたか?**
A 今までまったく異なった環境で生活することに不安を感じていました。入学直後は戸惑うことも多く、つらく感じることがもありましたが、時間が経つにつれ生活にも慣れ充実した毎日を過ごしています。19年 男性
- Q 好きな授業科目(訓練)は何ですか?**
A 遠泳訓練です。将来海を守る者として、肌身をもって海を実感することはたいせつだと思うからです。また、自分の意のままにならない遠泳において強靱な気力・体力を涵養することができますと思います。19年 男性
- Q 訓練で厳しいと感じることがありますか?**
A 何でも一人で黙々とこなしているのが厳しく感じます。お互いに声を掛け合い、励ましあうことで厳しさを共有し、克服してきました。20年 男性
- Q 寮生活をはじめてとする生活面全般の感想は?**
A 全寮制と聞いていたので、入学前はどんな生活になるのか不安でした。夏休みにオープンキャンパスに参加し、実際に寮内の案内してもらったり、説明を受けることで不安は軽減されました。30年 女性
- Q 寮生活をはじめとする生活面全般の感想は?**
A 全寮制と聞いていたので、入学前はどんな生活になるのか不安を感じていました。夏休みにオープンキャンパスに参加し、実際に寮内の案内してもらったり、説明を受けることで不安は軽減されました。30年 女性
- Q 訓練で厳しいと感じることがありますか?**
A 何でも一人で黙々とこなしているのが厳しく感じます。お互いに声を掛け合い、励ましあうことで厳しさを共有し、克服してきました。20年 男性
- Q 寮生活をはじめてとする生活面全般の感想は?**
A 全寮制と聞いていたので、入学前はどんな生活になるのか不安を感じていました。夏休みにオープンキャンパスに参加し、実際に寮内の案内してもらったり、説明を受けることで不安は軽減されました。30年 女性
- Q 訓練で厳しいと感じることがありますか?**
A 何でも一人で黙々とこなしているのが厳しく感じます。お互いに声を掛け合い、励ましあうことで厳しさを共有し、克服してきました。20年 男性

Q 海上保安大学校を受験した理由?
A 海上保安官になりたいという思いがあったこと、ほかの大学にはないような幅広い勉強ができること、自分の努力次第で多くの道が開かれていることに魅力を感じたからです。20年 男性

A 航海士に憧れていたことに加えて、チームワークとリーダーシップの涵養というこの大学の教育理念を知り、自分に合っているのではないかと考えたからです。20年 女性

海上保安学校

(京都府舞鶴市)



海に囲まれた美しい環境で、海上保安業務に必要な知識や技能を学び、あわせて心身を鍛錬。

実践的な授業で各分野のエキスパートを育成します。

卒業後は巡視船艇の乗組員などとして配属され、能力や適性に応じ特殊任務を行うスペシャリストになる道もあります。また一定期間現場で仕事をした後、選抜された職員については、海上保安大学校の特修科に進み、幹部職員となる道もあります。

カリキュラム

海洋科学課程など、大学校にはない専門的なコースも設けられています。

カリキュラム	船舶運航システム課程(1年)			情報システム課程(2年)	航空課程(1年)	海洋科学課程(1年)
	航海コース	機関コース	主計コース			
全課程共通科目	基礎教養(法学概要、国際法、海上保安業務概要等)、英語、情報処理、小型船舶操縦、体育・基本動作、乗船実習、統合実習					
船舶運航システム課程、航空課程、情報システム課程共通科目	刑法、刑事訴訟法、海上警察、海上環境、航行安全、救難防災、主計、訓練					
各課程専門科目	航海、運用、海事法、海象・気象、通信運用	機関、電気機器、海事法、通信運用	主計(総務・経理・船舶衛生)、調理、通信運用	物理、数学、通信実技、情報通信、海上交通、電気機器、基礎電子工学、航行援助システム機器・管理	数学、物理、海象・気象、航空通信運用、海上航空業務、船舶概論	
取得できる資格	◎ 五級海技士(航海)筆記試験 ◎ 四級海技士(航海)筆記試験	◎ 内務機関五級海技士(機関)筆記試験 ◎ 内務機関四級海技士(機関)筆記試験	△ 船舶料理士 △ 衛生管理者(船員法による)	◎ 第三級海上無線通信士 ◎ 航空無線通信士 ◎ 第二級陸上特殊無線技士 ◎ 第二級陸上無線技術士 ◎ 一級小型船舶操縦士	◎ 航空特殊無線技士 ◎ 航空無線通信士 ○ 一級小型船舶操縦士	△ 測量士補 △ 測量士 ○ 第一級海上特殊無線技士 ○ 第二級海上特殊無線技士 ○ 二級小型船舶操縦士
	※「三級海技士(航海)」「三級海技士(機関)」など、さらに上位の資格も取得できます。					
取得資格 ◎・・・卒業により取得 ○・・・在学中の受験により取得 △・・・卒業後一定の条件を満たすことにより取得						

卒業後の進路

管内転動

巡視船艇等
(警備救難業務等)

海上保安部等
(海上交通業務等)

※卒業後、「潜水士」「特殊救難隊員」「国際取締官」といったスペシャリストとして活躍する道もあります。

全国転動

航空研修
(パイロット養成)

航空基地
(警備救難業務等)

本庁・管区本部
(海洋情報業務等)

幹部登用への道

一定期間現場で仕事をした後、選抜された職員については、海上保安大学校の特修科に進み、幹部職員となる道もあります。

年間行事

- 4月: 4月期入学式
- 5月: 青葉山登山
- 6月: 基本動作大会
- 7月: いつもり祭(学生祭)
- 遠泳訓練
- 9月: 9月期卒業式
- 10月: 10月期入学式
- 11月: 大江山登山
- 12月: 早朝訓練
- 3月: 3月期卒業式

1日の流れ

06:30	起床(起床整列・体操・清掃)
07:00	朝食
08:20	授業整列
08:30~11:50	授業
11:50~12:50	昼食・授業準備等
12:50~17:15	授業・サークル活動
17:30~19:55	夕食・入浴
20:00~22:00	自習時間
22:30	就寝(翌日が休日の場合は23:15)

※原則として17:15以降毎日外出は可能です。休日の前日は外泊もできます。
 ※帰校時間22:15(翌日が休日の場合は23:00)
 ※おおむね土曜日、日曜日、国民の祝日は休日です。そのほか、夏期・年末年始などに長期の休暇もあります。

サークル活動

※体育系各団のいずれかに属し、心身の鍛錬をはかります。
スポーツ系サークル
 ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、陸上、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、空手道、遠泳術・漕艇(カッター)、ヨット、MT(マルチトレニング)、バドミントン

文科系サークル

英会話、学生音楽隊

国際交流

夏休みを利用して、学生がアメリカ、カナダなどを訪れるなど、国際交流を積極的に行っています。

待遇

本入学と同時に国家公務員(海上保安庁職員)として採用されます。そのため、給与(月額約14万円)やボーナス(年2回)が支給されるほか、国土交通省共済組合員としての保険給付などが受けられます。また、入学金や授業料が不要なほか、制服も貸与されます。

福利厚生

寮(全寮制)のほか、医務室などの施設が完備されています。医務室には、医師・看護師が配置され、十分な保健指導を行っています。そのほか校内には喫茶店、売店などがあります。

在校生からのメッセージ



海洋科学課程 中村 幸之介
 私は航行船舶をサポートし、海上での交通安全を守りたいと思い、海上保安学校に入学しました。学校では訓練や寮生活などですらいろいろありましたが、一人ではなかった仲間がいるので乗り越えられ、そのたいさつさ学びました。だから、現場配属を目前にして、仕事よりも初め一人暮らしをするのが少し不安です。



船舶運航システム課程(航海コース) 西川 実樹
 私は、大学生の時にライフセーバーの活動を行っており、その時に経験した事故がきっかけで海上保安庁を志望しました。学校での訓練や寮生活は想像よりも厳しく挫折しそうなときもありましたが、先輩や同期に支えられ、艱を乗り越えてくることができました。学校は技術や知識の習得だけでなく、仲間との絆を深める場所でもあるんです。



航空課程 中西 研裕
 祖父が船長だった影響で昔から海上保安官に憧れがあり、当時一般大学に在学中でしたが、夢を捨てられず受験しました。僕が目指す飛行士は卒業後も資格取得のために、さらなる訓練が続きます。困難な道のりですが強い意志で進めれば、決して後悔のない結果がついてくると信じています。受験生のみさんがんばってください。



情報システム課程 岸田 知也
 きっかけは人のために全力を尽くす仕事に憧れて。当初は理想との違いに悩みましたが、次第に訓練や寮生活で仲間と切磋琢磨する時間になり甲斐を感じるようになり、仲間と目標を共にする気持ちで、自分の意志をさらに強いものにしてきました。学校はつらいことも多いですが、それ以上に得るものがたくさんある場所ですよ。

Q & A

受験生や保護者の方々から寄せられる「よくある質問」に対して、在学中の学生がお答えします。

Q 入学前に不安だったことはありましたか？

A 団体生活にうまく馴染むことができるか不安でした。しかし今では尊敬する先輩方や、音楽を共にする同期たちにも恵まれ、毎日が本当に楽しいです。**船舶運航システム課程(航海コース) 男性**
 A 文系出身なので理系の授業についていけるか不安でした。しかし教官の熱心なご指導や、周りの支えもあり、乗り切れました。努力すれば不安になることはありません。**情報システム課程 女性**

Q 好きな授業科目(訓練)は何ですか？

A 「気象・海象」の授業です。フライトや業務を行ううえで必要な事柄ばかりであり、今まで何気なく見ていた空や雲が、まったく違った視点から見られるようになったからです。**航空課程 男性**
 A 遠泳訓練です。仲間と協力し、心同体となってみんなで完泳を目指すことに感動と達成感を覚えました。**情報システム課程 男性**

Q 海上保安学校を受験した理由は？

A ただ漠然とカッコよく強い女性を思い描いたときに、海上保安官がイメージにぴったり合いました。**情報システム課程 女性**
 A パイロットになることが昔からの夢でした。就職活動の中で警備救難業務を行うパイロットになれるコースがあることを知り、迷わず受験を決めました。**航空課程 男性**

Q 寮生活をはじめてする生活面全般の感想は？

A 最初は他人と生活することに抵抗もありましたが、それはすぐに慣れ、今では家族のような存在になりました。寮生活では、みんなで助け合いながら成長し合い、日々を有意義に過ごしています。**船舶運航システム課程(主計コース) 男性**

Q 訓練で厳しいと感じることがありますか？

A 登山訓練が厳しいと思いました。全員のペースに合わせて動かなければならぬからです。しかし、逆にみんながたたく頭振ることができました。**船舶運航システム課程(機関コース) 女性**
 A 耐寒訓練など体力的にも精神的にも厳しい訓練もありますが、仲間たちと時には互いに励まし合い、そして高め合いながら乗り越えていくことで、知らず知らずのうちに自分が成長して、驚いたこともあります。**船舶運航システム課程(機関コース) 男性**

海上保安官の職種紹介

海上保安庁の任務は「海の安全および治安の確保」をはかることです。現在、海上保安官約 12,600 人のうち半数は、その最前線である巡視船艇・航空機などで活躍。また陸上でも多くの職員がさまざまな職務に就いています。ここでは、そんな多岐にわたる海上保安官の仕事を紹介します。



海上で活躍する

四方を海に囲まれた日本は、世界第6位の広大な排他的経済水域を有し、漁業や海運といった経済活動、さらには海水浴をはじめとしたマリレジャーなど、海から多くの恩恵を授かっています。海上保安庁は、この広大な海域における秩序維持、海難救助、海上防災、海洋の環境保全、海上交通の安全確保などをはかるため、巡視船艇や航空機を駆使し、24時間365日昼夜を問わず、みなさんが安心して暮らせるように業務に励んでいます。

船艇乗組員としての仕事

巡視船は、遭難船の救助活動や国境線付近での領海警備、また密航・密輸・密漁・海洋汚染などの海上犯罪の防止、船舶交通の安全確保など、海の安全・安心を守るためにさまざまな仕事に従事しています。そのほか海洋調査や航路標識の見回りに従事する船艇、そしてこれらの船艇を事故なく安全に運航させるのも海上保安官の大事な仕事です。これらの船舶運航の業務内容は以下のとおりです。

船長	船の運航および各種業務を統括し、指揮監督する船の最高位の指揮官
業務管理官	各種業務全般を統括しながら、船長を補佐します
航海科職員	航海計画の立案、船体の整備など船舶の運航を担当
機関科職員	船のエンジンや電気系統、燃料の管理など船舶の機関部を担当
通信科職員	船の通信機器の運用・管理・整備など船舶の通信部を担当
主計科職員	船の総務・経理・調理・衛生管理などを担当

そのほか船艇の大きさや種類に応じて、「砲術科」「運用司令科」「飛行科」「観測科」「測定科」などがあります。

航空機搭乗員の仕事

航空機はその機動性を活かし、いち早く事件・事故現場に進出し、情報収集や広範な海域での捜索、また監視業務や領海警備などを行います。航空機の多くは全国14か所の航空基地に所属しますが、ヘリコプターの中には大型巡視船に搭載されたものもあります。ヘリコプターのおもな任務は、巡視船などと協力してはるか洋上で発生した海難の救助や、船からは接近できない浅瀬に取り残された人を直接吊り上げて救助する仕事です。これら上空から海を守る「空飛ぶ海上保安官」の仕事には、以下のようなものがあります。

飛行科職員	航空機を運航するパイロット。航空機の運航責任者である「機長」も務める。
整備科職員	機体整備や燃料管理を担当。吊上げ装置を駆使して救助などを行うことも。
通信科職員	通信機器の運用・管理・整備を担当。航空基地や巡視船との通信を行う。

そのほか航空機の所属する基地には「基地長」「次長」「専門官」などがおり、地上から情報提供など航空機の運航支援業務を行っています。

TOPIC 海上保安庁の航空機

「海で活動する海上保安庁になぜ航空機？」と、疑問をもたれる方もいらっしゃるでしょう。実は、広大な海上の安全確保のためには、まったく性質の違う船舶と航空機を組み合わせ、より高い効果を狙うことが必要なのです。たとえば航空機は、船よりも広いエリアを短時間に見ることができ、また重要な機材や人を急いで運んだり、どうしても船の近づくことができない岩場や浅瀬で活動するのに適しています。ただし航空機は船に比べ天候の影響を受けやすく、1回の燃料補給で飛行できる時間が短いなどの欠点もあるため、やはり主力となるのは巡視船。お互い補完し合うことによって、目的を達成することができるのです。



陸上で活躍する

海上の最前線で働く海上保安官と同様、陸上でも多くの職員が海の安全・安心を守っています。陸上での海上保安官のおもな業務内容は、以下のとおりです。

本庁の仕事

海上保安庁の中核である本庁は、日本の中央省庁が集まる東京・霞ヶ関にあって、基本的な政策の企画立案、業務に関連する法令の制定や改正、ほかの省庁との調整など海上保安行政の舵取り役を担っています。また職員の人事、福利厚生、教育訓練、船舶・航空機・情報通信システムの企画および予算の確保、広報活動など、現場の海上保安官が安心して業務に従事できるような仕事もっています。

管区本部の仕事

海上保安庁は全国を11の管区に分け、それぞれに管区本部を設置し担水水域を定めています。管区本部は、傘下の海上保安部や海上保安署、航空基地などの事務所を統括し、大規模な事案発生時には、直接指揮し対処することもあります。

海上保安部署の仕事

海上保安部、海上保安署、航空基地、海上交通センターなどの事務所では、巡視船艇や航空機を駆使し、治安の維持や海難救助、船舶交通の安全確保などの仕事に、日夜努めています。

その他

海上保安官を育成する海上保安大学校、海上保安学校などの教官として教育機関で勤務する海上保安官もいます。また内閣官房などほかの省庁への出向や、海外の大使館・領事館、国際機関で働く職員もいます。



スペシャリストとして活躍する

海上保安官の中でも、専門的技術を修得した者はスペシャリストとして、現場の第一線で困難な業務に従事しています。ここでは、その一部を紹介します。

特殊救難隊		船の転覆や火災、また、危険物を積んだ船における人命救助や火災消火など、特殊な海難救助に対応します。特殊救難隊員は、数年間の経験を積んだ潜水士の中から能力・適性を考慮して選ばれます。
機動救難士		全国各地で頻発する海難に迅速に対応するために、航空基地に救急救命士の資格を持った潜水士などを機動救難士として配置しています。彼らは海上の遭難者や漂流者をヘリコプターから降下して救助することができる、専門の職員たちです。
潜水士		船の転覆や沈没など海難に遭遇した人の救出などを行います（水深45mまで）。潜水士になるには、海上保安大学校で約2か月行われる「研修科潜水技術課程」を修了し、国家試験に合格することが必要です。
機動防除隊		タンカーの底層事故などで発生する油や有害物質などの流出による海洋汚染の防除や、海上災害の防止のための専門チームです。全国各地で発生する事故はもちろん、海外で発生した事故にも対応します。
国際取締官		ロシア語、中国語、韓国語など外国語を駆使して、外国人犯罪等の捜査を行います。これらの外国語は海上保安大学校における研修科（ロシア語、中国語又は韓国語基礎課程）において修得します。

そのほか、海洋調査に従事する「海洋調査官」、海上交通センターで働く「運用管制官」など、多種多様な海上保安業務を反映して、さまざまな分野のスペシャリストたちが海の安全と安心を守っています。



海上保安大学校

〒737-8512 広島県呉市若葉町 5-1
TEL 0823-21-4961 (代表)
URL <http://www.jcga.ac.jp/>



海上保安学校

〒625-8503 京都府舞鶴市字長浜 2001
TEL 0773-62-3520 (代表)
URL <http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/>

